

今年も人形浄瑠璃に行きました

高等部1年生が、7月11日（木）日本を代表する伝統芸能の一つであり、ユネスコ無形文化遺産である人形浄瑠璃文楽を鑑賞してきました。



時間	内 容	
10:00～ 10:20	文楽解説・ 文楽体験①	・太夫と三味線の解説。 ◎太夫については、客席全員での体験コーナーを設置 ・太夫の指導により、「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」の中の一節を客席の全員で挑戦。
10:20～ 10:50	文楽体験②	・人形の解説。 (文楽人形の構造と動かし方を実演を交えながら解説します。) ・実際に舞台上で使っている文楽人形を使った「三人遣い」体験。
10:50～ 11:00	休憩	10分休憩
11:00～ 11:30	ミニ公演	「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」
終了時	出演者紹介	

人形浄瑠璃文楽とは

人形劇と浄瑠璃（日本の伝統音楽の一つ）が結びついてできた江戸時代の娯楽であり、誕生から300年余にわたって、現在もなお大阪の人々に愛されている大阪で生まれた伝統芸能です。太夫は老若男女様々な登場人物を基本的には一人で語り分け、三味線奏者は臨場感のある演奏で場面のあらゆる状況を作り上げ、人形遣いは世界でも類を見ない1体の人形を3人で遣うことで細やかな演技で浄瑠璃の世界を表現します。この「太夫・三味線・人形遣い」の役割分担を「三業」と言い、人形浄瑠璃文楽では三業の三位一体の演技が、重要となっています。